

『江戸時代の妙薬と薬草』

江戸時代から利用される薬草を学んでみませんか

1 薬草トークング

講師 東京薬科大学名誉教授 指田 豊

「江戸時代の妙薬と薬草～水戸黄門の救民妙薬をひもといて」 13:40～14:55

江戸時代、水戸黄門で有名な徳川光圀は民を救うために藩医に命じて、日本初の家庭の医学書「救民妙薬」を発行しました。この中では数多くの薬草が取りあげられており、これらの薬草を中心に紹介します。また水戸藩と加賀藩で製造し、正倉院にも納められていた薬「紫雪」は、内藤記念くすり博物館に宣伝用の看板が展示されていることからエピソードを交え紹介します。

2 事例発表「江戸時代の薬草を未来につなぐ植物園」

コーディネーター 西川 綾子 (水戸市植物公園園長・NHK趣味の園芸講師)

1 「加賀藩の伝統薬とそれらにつながる現在の取り組み」 15:00～15:30

金沢大学医薬保健学域薬学類・創薬科学類附属薬用植物園 准教授 佐々木 陽平

2 「人類の宝を次世代に伝える～薬草ネットワーク」 15:30～16:00

岐阜薬科大学薬学部 教授 薬草園園長 酒井 英二

3 「水戸黄門と薬草を未来につなぐ～水戸市と養命酒の協働事業」 16:10～16:20

水戸市植物公園 園長 西川 綾子

日時 2017年11月18日(土)

午 前 の 部	10:30～11:30	博物館と薬草園の紹介	
昼 食 の 部	11:30～12:30	薬膳カレー(要予約)	
受 付・開 場	12:30～13:30		
午 後 の 部	13:30～13:40	ご挨拶 日本植物園協会会長 岩科 司	
		各務原市長 浅野 健司	
	13:40～16:30	シンポジウム	

会 場 内藤記念くすり博物館(大ホール)

定 員 200名(定員になり次第締め切り)

参 加 費 1,000円(資料代)

参加申込 申込用紙(チラシ裏面)に住所・氏名・年齢を記入し、FAXで申込。
締め切りは2017年10月31日(火)まで。

主催 公益社団法人 日本植物園協会

後 援 各務原市 中日新聞社 内藤記念くすり博物館

協 力 東山植物園 養命酒製造株式会社 日本メディカルハーブ協会

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会からの助成を受けて開催されます。

